



庭 球 部

■ 1902年(明治35年)公認

部員数

48名



部長
中井浩巳
理工学術院
教授



監督
石井弥起



主将
藤田大地
スポーツ科学部
相生学院

今年の卒業生は、大きな成長と飛躍を示した学年である。まずインカレでは、女子がシングルス準優勝、ダブルス優勝と、卒業生がその実力を存分に発揮してくれた。続く関東リーグでは、男子は藤田主将のもと昨年の最下位から見事に立て直し優勝、女子も金子主将のもとリーグ覇者を果たした。早慶戦でも春は男女、秋は女子が勝利と躍動を続けた。その勢いそのまま臨んだ王座では、男女とも準優勝と頂点にはあと一歩届かなかったが、最後まで仲間を信じて戦った姿は真に誇らしい。得た経験と絆が未来を強く支えてくれるであろう。

2025年シーズンは「NEW 早稲田」を体現できた年だったと思います。男女での早慶戦勝利、関東リーグ優勝という目標を達成することができました。「王座」では男女とも準優勝と最大の目標にはあと一歩届きませんでしたが、選手、サポート全員が丸一となって戦った姿は素晴らしいものでした。個人戦でも男子では安藤(1年)がインカレでベスト8、藤崎(1年)がベスト16と活躍、女子では金子、平田(4年)組が優勝、シングルスでは宮田(4年)が準優勝という見事な結果を残してくれました。4年生が引退し、新しいチームが始動しています。26年も「チャンピオン」を目指して継続して取り組んでいきたいと思えます。

早稲田大学庶球部だからこそ本気になりました。入学当初は王座16連覇中という超強豪で、レギュラーメンバーとして貢献できないもどかしさを感じていました。しかし、王座18連覇が途絶えた大学2年次にはこのチームを牽引する主将として戦い、もう一度強い早稲田を取り戻す事を決意しました。惜しくも日本一には届かなかったですが、関東6位から王座準優勝を達成できたことを誇りに思います。ここまでの結果を残せたのも、日々練習に付き合ってくれている部員の存在と指導を行って下さるコーチ陣の存在、OBOGのサポートによって部活動を円滑に進めることが出来たからです。今まで支えてくださった全ての方々、本当にありがとうございます。



男子主務
阿曾真也
政治経済学部
早稲田実業



男子主務
田口 慎之介
人間科学部
大分舞鶴



女子部門主将
金子 さら紗
スポーツ科学部
浦和麗明

入部した日の緊張と高揚を、今でも鮮明に覚えています。振り返れば、4年間は一瞬のように過ぎ去りました。終電と始発を繰り返す過酷な雑用から、主務としてのチームマネジメントまで、全てで自分が成長させてくれました。4年間を通して、王座優勝からリーグ戦最下位まで、沢山の嬉しい勝利と悔しい敗北を味わいました。ですが、結果に関わらず仲間と共に全力で戦ったことは、何よりの誇りです。支えてくださった全ての方々に、心からの感謝を申し上げます。ありがとうございます。

4年間のうち2年間は副務、主務という役割を与えて頂き、スポーツを勝負だけの面だけではなく、チームワーク・組織づくりという面で見ることができました。この経験はこれら先においても必ず役に立つ考え方や、かけがえのないものだと思っています。私が23年の時にはリーグ戦で5.6位となってしまう、入れ替え戦にもかかってしまいましたが、自身の役割を自覚して部員たちと協力することで関東リーグ優勝に繋がったと思っています。スポーツだけではなく、生きていく上で大きな困難にぶつかり、周囲の仲間と協力しなければならないことはあると思います。その度にこの4年間の経験を思い出し、乗り越えていきたいと思います。

この4年間で数え切れないほどの経験を、多くの事を学ばせていただきました。中々、上手くいくことばかりではなく、入部当初から絶えずことごとく掲げていた「王座優勝」という目標にも最後まで届きませんでした。苦しさも楽しさも同じチームとして分け合えた経験は決して無駄にはなりません。この4年間、最後まで全力で走りきれたのは、監督・コーチ陣を始めとする、歴代の先輩方や同期、後輩達のおかげです。私たちの代は個性が強く、皆様が抜いづらかったかもしれませんが、最後まで根気強く見届けて下さったこと、本当に感謝しております。今後の先輩達の活躍に期待しています。4年間ありがとうございました。



女子部門主務
森岡 きらら
スポーツ科学部
神村学園

入学当初から怪我に悩まされ、入退院を繰り返したこともあり、思い描いていた選手生活を送ることはできませんでした。それでも、主務として歴史と伝統ある庶球部に貢献できたことを誇りに思います。最後の王座ではあと一歩で優勝に届かず悔しさは残りますが、4年間すべてを懸けて仲間たちと戦った一瞬一瞬を思うと、何一つ後悔はありません。早稲田を選び、このチームで過ごせたことを心から誇りに思います。4年間、本当にありがとうございました。



本年度試合戦績

成績(早稲田勝利:○、引き分け△、敗戦●)

◇2025年関東学生テニストーナメント大会

(4月12日~5月5日)

- 男子シングルス
 - ▷ベスト8 龜塚太(ス1)
- 男子ダブルス
 - ▷ベスト8 前田優(ス2)・本山知苑(ス2)
 - ▷準優勝 藤田大地(ス4)・森田隼介(ス3)
- 女子シングルス
 - ▷ベスト4 宮田萌芳(理工4)
 - ▷準優勝 田邑来未(ス3)
 - ▷優勝 小高未織(ス2)

- ▷日本大 (○7-2)
- ▷慶應大 (●4-5)
- ▷法政大 (○7-2)
- ▷筑波大 (○5-4)
- ▷明治大 (○5-4)

◇三菱電機ビルソリューションズ全日本テニス選手権 100th supported by 橋本総業ホールディングス (10月5日~12日)

- 女子ダブルス
 - ▷ベスト4 田邑来未(ス3)
 - ▷ベスト8 金子さら紗(ス4)・平田葵(ス4)

◇2025年 関東学生テニス選手権大会

(10月4日~11月11日)

- 男子シングルス
 - ▷ベスト4 本山知苑(ス2)
 - ▷ベスト8 森田隼介(ス3)

- 男子ダブルス
 - ▷ベスト8 前田優(ス2)・本山知苑(ス2)

- 女子ダブルス
 - ▷優勝 小高未織(ス2)

- 女子ダブルス
 - ▷優勝 小高未織(ス2)・網田永遠希(ス1)
 - ▷ベスト8 田邑来未(ス3)・河野望奈(ス1)

◇2025年 全日本大学対抗テニス王座決定試合(女子61回)

(10月24日~26日)

- 準優勝
 - ▷2回戦 新潟医療福祉大 (○5-0)
 - ▷準決勝 亜細亜大 (○3-0(打ち切り))
 - ▷決勝 関西大 (●2-3)

◇2025年 全日本大学対抗テニス王座決定試合(男子79回)

(10月24日~27日)

- 準優勝
 - ▷2回戦 福岡大 (○8-1)
 - ▷準決勝 関西大 (○5-4)
 - ▷決勝 日本大 (●2-7)

◇第36回 韓国大学テニス選手権 (11月12日~19日)

- 女子シングルス
 - ▷ベスト4 宮田萌芳
- 女子ダブルス
 - ▷ベスト4 宮田萌芳

◇2025年関東大学テニスリーグ(女子第61回)

(9月6日~19日)

- 優勝
 - ▷東京国際大 (○6-1)
 - ▷明治大 (○6-1)
 - ▷慶應大 (○5-2)
 - ▷亜細亜大 (○5-2)
 - ▷筑波大 (○5-2)

◇2025年関東大学テニスリーグ(男子第79回)

(9月6日~18日)

優勝

